

戦没者慰霊祭

11月11日(火)、南部町総合会館3階講堂で「南部町戦没者慰霊祭」が来賓・遺族・町関係者らが出席する中、厳かに行われました。

334柱の御霊を偲んで黙祷を捧げ、戦争で亡くなられた方のご冥福を祈りました。

また、出席者による献花が行われ、戦没者を偲ぶと共に、二度と戦争を起すことはならないという平和への決意を御霊の前で誓いました。



献花



佐野町長式辞

女団連

「町長と語る会」

11月14日(金)、女性団体連絡協議会(愛育会、食生活改善、消生研、JA女性部南部・富沢、南部地区ボランティア)主催による「町長と語る会」が開かれました。

佐野町長からは住民の健康や医療・教育の現状と今後の課題等、町の様子が話されました。

参加者からは、地域の活性化、医療・企業誘致・中野ーCの交流施設について等、様々な質疑・提案がなされました。また、女団連で取り組んでいるゴミの減量については、生ゴミ処理器「キエーロ」を使用した実績も報告され、着実に効果が出ていることを実感させられました。女団連ではキエーロの普及を図るために、毎月学習会を開いていますので、一度参加してみたいかがでしょうか。



多くの方が参加されました

保育所交通安全教室

11月28日(金)、改善センターにて県警交通安全教育車(さちかぜ号)による巡回交通安全教室が行われました。

手品や腹話術を楽しみながら交通ルールやマナーを学習し、腹話術のけんちゃんと交通事故に遭わないように4つの約束をしました。

- ・ 右側を歩こう
- ・ 横断歩道を渡ろう
- ・ 道路に飛び出さない
- ・ 道路で遊ばない

大人の皆さんは、これから年末に向けて忙しい時期となりますが気持ちに余裕をもつて安全運転をお願いします。



事故にあわない4つの約束をしました

認知症をきくべし

11月13日(木)、農村改善センターで、認知症をきくべしという開催されました。

「わが国における認知症対策について考える」と題し、南部診療所 所長市川万邦先生による講演が行われ、認知症をとりまく現状・課題・対策等について分かりやすく講演いただきました。また、認知症の人と家族の会メンバーと参加者との交流もあり、日頃の介護の悩み等を共有し合うよい機会となりました。

南部町では地域包括支援センターを中心に、認知症に関する講座や介護予防教室等を行っており、また相談も随時受け付けております。お気軽にご相談ください。

お問合せ 福祉保健課

地域包括支援センター

☎ 04-4836(直通)



市川万邦先生による講演

ヴァンフォーレ甲府 南部町サンクスデー

11月29日(土)に山梨中銀スタジアムで開催されたJリーグ第33節「ヴァンフォーレ甲府 VS FC東京」において南部町サンクスデーが行われました。ヴァンフォーレ甲府では、山梨県全域をホームタウンとし、「地域密着型クラブ」への実現に向けて取り組んでいます。ホームゲームでは試合ごとに市町村を割り振りホームタウンサンクスデーとして開催しています。

内容は、首長による特産品贈呈セレモニー、選手入場時に手をつなぎ入場するエスコートキッズ、試合を円滑に進行するためのボールパーソンを行いました。

普段入れない競技場内で参加者の皆さんは楽しそうな表情をしていました。



佐野町長より特産品を手渡しました



選手と記念写真！

職員地震防災力強化研修

10月23日(木)、11月27日(木)農村環境改善センターで職員を対象に、地震防災力強化研修を行い、講師には、「中央防災会議専門委員・東京経済大学名誉教授 吉井博明氏」、「(株)総合防災ソリューション 山本忠雄氏」、「(株)防災&情報研究所 土屋徹氏」を招き、地域防災計画の重要事項、防災体制の整備と災害対策本部活動に関する基本的事項について、理解と意識の向上を図ることも、与えられた業務を迅速かつ的確に行えるよう研修会を実施しました。

23日は、特別職・管理職・主幹を対象に「大規模災害発生時、災害対策本部長を如何に補佐するか」と題して、「自治体の防災・危機管理」についての講義と、災害対応図上シミュレーション訓練を行い、被害状況をあらかじめ設定し、情報処理演習、災害応急対策検討演習、模擬対策本部会議など各対策班対応演習を行いながら、「幹部職員の防災上の地位と役割」「町における防災体制の整備の在り方」「災害対策本部運営の在り方」等学びました。

25日は、一般職を対象に、初動対応訓練、災害対策本部設置訓練を行い、発災状況をあらかじめ設定し、町内の被害想定、来庁者の安全確保、情報収集方法など発災初期に起こり得る事態を付与し、グループワークでそれぞれ発表し合い、白板(模造紙)に被害

状況が一目でわかるよう職員間で工夫しながら、講師の解説には真剣に聞き入っていました。

最後の避難所運営訓練(HUG)では、各地域の分館等が避難所として安全性が確保できるか判断基準の確認、設営、受入れ等を図上でを行い、被害想定上判断に困る内容を考慮し、課題を共有する事も確認できました。

今後、その切迫性が懸念される東海地震等をはじめ、いつ起こるか分からない大規模災害において、職員が同じ認識を持って対応できるよう研修・訓練を重ねていくことを共感しました。



図上訓練の様子